

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 20

ローマ人への手紙において (4)

からだの中の肢体の要素と領域

聖書：ローマ 8:3. 1:3-4. 8:14. 12:2, 4-5, 9 前半, 10 前半, 12 後半, 14-15, 18. 15:29

- I. わたしたちはローマ人への手紙において、神聖な啓示の高嶺を見ることができません。すなわち、神が人と成ったのは (8:3)、人が神となって (1:3-4)、三一の神の有機体としてのキリストのからだを生み出すためである (12:4-5) ということです。
- II. ローマ人への手紙における神の福音に関する神聖な思想とは、神が人と成ったのは神の全体的な救いにおいて、罪人が贖われ、再生され、聖別され、更新され、造り変えられ、同形化され、栄光化されて、神の子たちとなり、命と性質において神と同じになって、キリストのからだの肢体となるためであるということです——8:3. 1:3-4. 3:24. 5:10. 8:14, 29-30. 12:2, 4-5。
- III. ローマ人への手紙の中心点はキリストのからだです。わたしたちはキリストのからだを軽視するなら、クリスチャン生活の焦点を持たず、クリスチャン生活において正常な目標、目的、導きを持ちません——5節。
- IV. 神のみこころとはキリストのためにからだを獲得し、彼の豊満、表現とならせることです——啓4:11. エペソ1:5, 9. ローマ12:2, 4-5:
 - A. からだの生活をするとは、「何が神のみこころであるか……を……わきまえるようになるためです」——2, 5節。
 - B. 神のみこころとは、わたしたちが相互にからだの中で互いに肢体となり、組み合わせられて、キリストのからだとなり、からだの生活をするということです——2, 5. I コリント 1:1-2. 12:12, 27。
 - C. わたしたちはからだの適切な肢体であり、召会生活の中で行動し、機能するなら、神のみこころの中にいる人になります——14-27 節. ローマ 12:2, 5. エペソ 1:1. 5:17。
- V. 献身はキリストのからだのためです。献身の目的はわたしたちがからだを認識し、からだの生活をするためです——ローマ12:1-2:
- VI. キリストのからだは一群れの人々から構成されている有機体であり、ミングリングされた霊にしたがって行き、歩き、存在を持ちます——1:9. 7:6. 8:4, 16. 12:11:
- VII. ローマ第12章5節は、キリストがキリストのからだの中の肢体の要素であり、領域であることを示しています——:
 - A. キリストのからだの中で、キリストご自身がすべての肢体の要素であり、領域です。なぜなら、わたしたちはキリストの中で互いに肢体であるからです——5節。

B. わたしたちはキリストとの有機的結合の中で一つからだです—— 4-5 節：

1. ローマ第 12 章がからだについて語っているのは、有機的結合の観点から、すなわち、キリストとだけでなく、またキリストの他のすべての肢体とわたしたちを共に結合する命からです—— 4-5 節. 6:4-5。
2. キリストとの有機的結合は、わたしたちをキリストと、また彼のからだの他のすべての肢体と命において一とします—— 12:5：
 - a. からだは組織や社会ではなく、完全に一つの有機体であり、それはわたしたちがキリストの中で持っている命における結合によって生み出されます——ヨハネ 15:1。
 - b. からだはキリストとの有機的結合の中で結び付いており、からだの実際はキリストとの有機的結合の中にとどまることです—— 4-5 節。
 - c. からだの中で有機的であることが意味しているのは、わたしたちが有機的にキリストと結合されており、それによって彼のからだの中へと植えられているということです。今やわたしたちはキリストのからだとの有機的結合を持っており、からだの一部です——ローマ 12:5。
 - d. からだは単に共に集まっている一群れのクリスチャンではありません。からだはキリストとの有機的結合の中で結び付いています。
3. キリストのからだは完全に命の事柄であり、またキリストとの有機的結合の中にとどまる事柄です—— 8:2, 6, 10-11, 12:5：
 - a. からだの実際は、このキリストとの有機的結合の中にとどまることです——ヨハネ 15:4-5。
 - b. キリストのからだを認識するために、わたしたちはキリストと有機的に一であるという徹底した認識を持って、キリストとの有機的結合を十分に経験する必要があります—— I コリント 6:17。
 - c. わたしたちがキリストとの有機的結合を認識しないなら、実行においてわたしたちはからだの外側におり、からだから離れています。
4. わたしたちが互いに肢体であるのはキリストの中でであって、わたしたち自身の中でではありません。なぜならキリストが、わたしたちを互いに肢体とする要素であり、またわたしたちが互いに肢体である領域でもあるからです——ローマ 12:5：
 - a. わたしたちは、わたしたち自身の中ではキリストのからだの肢体ではありません。もしわたしたちがわたしたち自身の中にいるなら、実行においてわたしたちはからだの肢体ではありません。
 - b. わたしたちはキリストをからだの中の肢体の要素また領域として経験し、享受することを学ぶ必要があります。

VIII. ローマ第12章においてわたしたちが見るのは、キリストをからだの中の肢体の要素また領域として経験し、享受することの結果です：

- A. わたしたちはからだの意識を持ちます——「喜ぶ人たちと共に喜び、泣く人たちと共に泣きなさい」—— 15 節。
- B. からだの生活の中で、またからだの生活のために、わたしたちは最高の美德の生活

を生きます：

1. 「愛には偽りがあってはなりません……兄弟愛の中で互いに温かく愛し合い」
—— 9 節前半， 10 節前半． 5:5． 8:35-39． 15:30。
2. 「患難の中で耐え忍び」 —— 12:12 後半。
3. 「あなたがたはできる限り、すべての人と平和に生活しなさい」 —— 18 節。
4. 「あなたがたを迫害する者たちを祝福しなさい． 祝福して、のろってはいけません」 —— 14 節． 15:29。

© 2011 *Living Stream Ministry*